

学籍番号： 4313100241

氏名： 高原 将

実習先： 悪石島

実習期間：平成30年 6月 4日 ～ 6月 6日

1. 自然環境

悪石島は、トカラ列島で北から5番目の有人島である。鹿児島市より南下すること292.5km、北緯29度26分、東経129度38分に位置し、島の面積7.49k㎡、周囲12.64km、北西部には標高584mの「御嶽（みたけ）」がそびえ、その麓には温泉が湧き出している。

十島村（トカラ列島）の口之島から悪石島までの各島は火山特有の地形であり、周囲は断崖絶壁に覆われ起伏が激しく平坦地が少ない。また、気候は温暖で雨も多く、夏季は台風の常襲地帯であり、冬季は北西からの季節風が強い。

島の大部分は琉球竹に覆われているが、その中には、ガジュマル、アコウ、ヒロウ、タブ、イヌマキ、シイなどの主に亜熱帯性の自然林があり、マルバサツキ、エビネ、ナゴランなども自生している。また、天然記念物に指定されている「アカヒゲ」（十島村の村島）をはじめ、メジロ、ウグイス等が数多く見られる。さらに、カラスアゲハやツマベニチョウ等の種々の蝶も土着している。



2. 社会的背景

[人口など]

- 悪石島（十島村の概要 - 十島村役場公式サイトより）

人口・世帯数（2018年03月）：73人・35世帯

- 十島村全体（鹿児島県 十島村 | 地域医療情報システム（日本医師会）より）

人口（2015年・国勢調査）：756人

人口増減率（2010～2015年）：15.07%

高齢化率（65歳以上・2015年）：28.40%

人口密度（2015年）：7.50人/k㎡

[主な産業]

民宿経営（4軒）、畜産（ウシ）、漁業、建設会社の工事従事者、九州電力委託職員、役場出張員、診療所看護師、商店（1軒）等である。

牧場では牛を繁殖させ、仔牛を鹿児島の市場へ出荷させている。

[歴史]（十島村（トカラ列島）について - history.pdf より引用）

トカラ列島の歴史については、列島の位置から見て、古代の南洋文化（琉球文化）が北上した「海上の道」に当たります。しかし、九州本土にも近いことから、本土の文化（大和文化）の影響を強く

受けた地域でもあります。考古学的にも注目される地域であり、数多くの遺跡の発掘調査が実施され、貿易陶磁器等の出土によって南九州と南島（奄美以南）との文化交流に大きな関わりや影響があったことが解明されつつあります。

中世については、資料が少ない状況ですが、確かに七つの島にも中世的歴史は存在しています。トカラ列島を俄然歴史上に登場させたのは、平家との関係であり、平家一門の日宋貿易・南海貿易による海上交通は、南西諸島のトカラ列島の各島々を標識に行なわれていたと言われていました。

壇ノ浦の合戦で源義経軍に敗北した平家一門は、西走し九州各地に上陸しました。その一部がトカラ列島の各島々に上陸したと言われており、北風に乗ってやってくる源氏の追っ手を見張った番所跡や洞窟があります。そのため、全島ほとんどに平家末裔の伝承が残り、各島に島司（郡司）の家柄が残っています。この家柄は島の中心的・指導的家柄であり、財力・権力も安定し、宗教的役割についても重要な地位にありました。

近世でトカラ列島の島々は、薩摩藩直轄領で船奉行の支配下にありました。各島々には島役（郡司・横目・浦役・名頭）を配置し、口之島・中之島・宝島には在番を置いて島政が行われていました。

幕末においては、口之島・中之島・宝島に異国船番所・津口番所が置かれていました。

文政七年（一八二四）、宝島でイギリス捕鯨船との争いがあり、この事件は、日本を変える重大事件となりました。それは、ペリーの黒船出現より三十年早い事件で、これを機に幕府は異国船打払令を出しました。この争いがあった一体は、イギリス坂と呼ばれています。

昭和21年2月に、連合軍総司令部の宣言により、北緯30度以南の下七島（現十島村）と上三島（現三島村）に分断され、米軍政下に置かれることになりました。このことは、日本政府が政治上・行政上の権力行使を停止され、日本の範囲から除外されたことを意味します。

昭和27年2月4日に、ポツダム政令（日本政府令13号）により、北緯29度～北緯30度の下七島を大島郡十島村（としまむら）とし、同年、2月10日に地方自治法の適用を受けることとなりました。

十島村の本土復帰と共に、島々の生活や経済・産業は、県本土へと向きを変え、県本土との関わりは、益々緊密の度合を増していったことから、昭和31年4月1日から役場庁舎を鹿児島市へ移転しました。

トカラの名は、「日本書紀」に出てくるのが最初の所見のようですが、その名の由来については、沖縄・奄美地方で沖の海原を意味する「トハラ」から派生したという説。宝島に乳房の形をした女神山があることから、アイヌ語の乳房を意味する「トカプ」に由来するという説。また、「宝島」の「タカラ」から派生し、列島全体を指すようになったという説などさまざまですが、決め手になるものはありません。

引用終り

また、悪石島の名前の由来は、「島のあちこちに石があり、崖から落ちてきそうだから」や、「平家の落人が、追手が来たがらないような名を付けた」など諸説がある。

3. 住民の生活

悪石島の風習で最も有名なのはボゼである。ボゼは盆の終わりに現れるとされる神、ないしはその仮面

装束で、その出現理由には諸説あるが、盆行事の幕を引くことで、人々を死霊臭の漂う盆から新たな生の世界へ蘇らせる役目を持つと指摘する研究者もいる。また、盆時期には先祖の霊とともに悪霊も現世にやって来るので、その悪霊を追い払うものとする説もある。

かつてはトカラ列島の中の島にもボゼが現れたというが、現在ではボゼ祭りの風習は悪石島にだけ伝わっている。

盆の最終日翌日にあたる旧暦7月16日に、若者が赤土と墨で塗られた異形の面を被り、ピ

ロウの葉の腰蓑を巻き、手首や足にシュロの皮をあててボゼに扮し、手には男根を模したボゼマラという長い棒を持つ。午後に島内の聖地とされるテラ（墓地に隣接する広場）を出発した3体のボゼは、島の古老の呼び出しと太鼓の音に導かれ、島民が盆踊りに集まっている公民館の前の広場を訪れる。主に女子供を追い回し、子供達は異様な姿に悲鳴をあげて逃げ惑い、辺りは笑い声と叫び声につつまれ騒然となる。あまりの恐怖に泣き出す子供すらいることもある。ボゼはボゼマラを持ったまま人々に迫り、その先端についた赤い泥水を擦りつける。こうすることで悪霊祓いの利益があり、女性は子宝に恵まれるという。こうした騒ぎが10～15分続いた後、太鼓の音が六調のリズムに変わると、ボゼが広場の中央に集まり踊り始める。そして再度の太鼓の合図で再びボゼたちは子供たちを追い回しながら、その場を走り去る。ボゼがテラへと戻って来た後、顔を覆っていた面はそこで跡形もなく壊される。一方で残された公民館では、悪霊を祓われた人々が安堵と笑いに満ち、酒や料理を楽しみながら夜が更けてゆく。

島内には、スーパーやコンビニエンスストアなどはなく、雑貨屋が1件あるだけのため、島の方々はそこで食糧品などを購入するか、または鹿児島や奄美大島から個人的に取り寄せているとのことであった。また、台風などでフェリーが運航せず食料が届かなくなることもあり、島の生活環境の厳しさを感じた。



前述したように、主な職業は民宿経営、畜産、漁業、建設会社の工事従事者・九州電力委託職員、役場出張員、診療所看護師、商店等である。十島村の平均所得（総務省発表の統計資料をもとに、市区町村別の課税対象所得の総額を納税者数で除算した額を平均所得と規定し算出）は304万9160円である（2017年）。鹿児島県の市町村で、1位三島村320万7486円、2位十島村304万9160円、3位鹿児島市302万1010円となっており、これは島の成人の総数のうち就業者数の割合が大きいからではないかと考える。

4. 医療供給体制

医療については、病院がなく、各島に村立の「へき地診療所」があり、1名ずつ看護師が常勤している。また、常駐医師が鹿児島赤十字病院から3ヶ月交代で長期派遣され、中之島を拠点に上4島の巡回診療をしている。また、下3島（悪石島はこれに含まれる）については、中之島の常駐医師以外の鹿児島赤十字病院の医師が月2回程度巡回して住民の診療を行っている。その他、鹿児島こども病院による小児診療や鹿児島大学による眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科など特定診療科の診療も行われている。

救急患者（診療所で対応ができない患者）が発生した場合には、Drヘリ、もしくは県防災ヘリ、又は自衛隊のヘリコプターにより鹿児島本土、または奄美大島の病院へ搬送される。

実習概要

日付	内容
6月4日	<p>22:00 フェリーとしま待合所に集合 22:30 乗船開始 23:00 出港</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>二等寝台の船室 二段ベッド×4で8人入れる</p>
6月5日	<p>9:30 悪石島着 コミュニティセンター（通称コミセン）へ移動し、診療の準備</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>診療用のチェアー ポータブルユニットを使用した</p> <p>小児口腔ケア用のチェアー コミセンの畳を重ねて代用した</p> </div>



巡回診療車「こじか号」も診療に使用した。車内には診療ユニットが備え付けられている。

10:00 診療開始

午前中、私が介助・見学をさせていただいた患者では、義歯の不適合により義歯新製となった。使用中の義歯をトレーとしてシリコーン印象材で印象採得を行った。時間を置いて午後に再び来てもらい、当日中に咬合採得を行うために、その場で咬合床を作製することになった。



同行した技工士さんが、印象から作成した作業模型上で、その場で咬合床を製作した。

巡回診療では診療回数に制限があるため、次回の巡回診療で装着の予定とのことであった。また、義歯に関連する治療では、直接法にてリラインを行った症例が2例あり、うち一例は抜歯後に増歯と同時に行うことになった。

悪石島小中学校の学校歯科健診（確か8人）は、こじか号で村上先生が実施された。

12:00~13:00 お昼休み

民宿「にし荘」でのお昼

13:00~17:00 診療再開

前述した義歯の新製・リラインの介助のほか、学校歯科健診でう蝕処置の必要がない子どもへのスクーリング、PMTC、フッ化物塗布の介助を行った。

17:00~ 後片付け

その後は温泉に行ったり、夕食を食べたり、部屋で先生方とお酒を飲んだり、星を眺めに散歩に行ったりしたのちに就寝した。



〈湯泊温泉〉

温泉というよりも公衆浴場といった雰囲気だった。
島外者の入浴料は200円だった。

島の人が当番制で掃除などの管理をしているとのことであった。

露天風呂もあったが、運悪くその日はぬるくて入れそうになかった。



〈夕食〉

昼食は質素だったが、夕食はかなり豪華だった。

診療、実習を終えた後の飲み会。

鹿児島県歯科医師会のセンター・診療車課主任の野口さんの企画で、誕生日の近い村上先生をサプライズでお祝いした。



野口さんは、巡回診療を管理するだけでなく、自分たち実習生の面倒もみてくださっている。



〈散歩〉

街灯がないと真っ暗で、慣れるまでは前の人白っぽい服だとかろうじて見えるぐらい暗く、星がとてもよく見えた。

野口さんによると、この日はまだ見えない方らしく、冬だともっとよく見えるとのことだった。

6月6日 6:30 起床・朝食
7:30 出港



乗船前に
悪石島の港の船着場で

18:00 鹿児島港到着・解散

振り返り記録（実習を通じて学んだこと、気付いたこと、疑問に思ったこと、など。）

離島巡回診療では、一人あたりの診療時間や通院回数、使用できる道具や機材に制限があり、歯周病治療や矯正治療のような通常外来では何も問題なく行えるようなことでも行えないのは不便だろうと感じた。今回は見ることはなかったが、重篤な歯周病や感染根管治療が必要な患者さんがいた場合、応急処置を行うことしかできないと思う。検査や診断はできても、長期的な治療となると、悪石島に住んでいる場合、朝早く島を出て夕方6時頃に鹿児島に着き、翌日、あるいは二日後に島へ戻るフェリーに乗るとしたら、一回の治療でフェリー代8412円（寝台は使わない2等旅客、住民料金として）と宿泊費、滞在費がかかり、時間、金銭、精神的な面で大きな負担となるだろう。

しかし、巡回診療では、2台のポータブルユニットと診療車により、簡単な処置で、通院回数が3回までの処置であれば行うことができ、わざわざ鹿児島市まで移動・滞在する必要がなくなり、島民の方々のためになっているだろうと感じた。また、十分な治療を行うことができない場合にせよ、検査・診断をすることで治療をする必要性を伝えることができるというのは大事なことだ。実際、今回の巡回診療では9名のスタッフ（当然私は除く）に対し、それを上回る数の患者さんが見られた。これならば島民の方々が移動するよりも効率はいいだろう。

今回の離島実習では普段の大学の实習では考えることのないようなことを多く体験し、学ぶことができた。このような機会を与えてくださった先生方、スタッフの方々には感謝しきりである。

参考文献

十島村役場公式サイト - ここは刻を忘れさせる島

<http://www.tokara.jp/>

悪石島小中学校ホームページ

<http://www.toshima-sc.net/akuseki/>

鹿児島県 十島村 | 地域医療情報システム（日本医師会

<http://jmap.jp/cities/detail/city/46304>

十島村(鹿児島県)の平均所得・年収 | 年収ガイド

https://www.nenshuu.net/prefecture/shotoku/shotoku_city.php?code=463043

ボゼ - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%82%BC>